

種名	ホソミオツネトンボ <u>Indolestes peregrinus</u> 
分類	昆虫綱トンボ目アオイトトンボ科
俗称	「ホソミ」は体が細いこと、「オツネン」は成虫で越冬することから越冬(エツネン)に由来している。
形態的な特徴	体長は 38mm(腹長 28～32mm、後翅長 19～22mm)ほどで、ほぼ雌雄同じ大きさである。雌雄とも未成熟期は淡い褐色の地に銅色の斑紋をもつ地味な色をしているが、成熟すると雄は青地に黒の斑紋、雌は少し緑がかった青地に黒の斑紋をもつようになる。よく似た種にオツネトンボがいるが、見分け方は簡単である。幼虫は、淡褐色から淡緑褐色をした体長 15～17mm(側尾鰭長 7～8mm)ほどのヤゴである。
分布	本州、四国、九州に分布し、東北日本では産地が限られる。離島では五島列島の福江島、天草諸島、種子島、奄美大島に分布する。
繁殖行動	ほとんどのトンボが幼虫または卵で越冬するのに対し、本種は成虫で越冬するという特徴をもつ。雌が春に産卵すると、卵から孵化した幼虫は7月から8月頃には羽化して新成虫となる。新成虫は水辺を離れて徐々に遠くへ分散し、冬季にはネザサのやぶの中や雑木林内で植物の小枝や茎につかまり越冬する。翌春になると成熟して淡褐色の体色が青色に変わり、池沼などの水辺に集まって交尾、産卵をする。雌雄が連結して、挺水植物や水面に張り出した植物の葉や茎で、水面から少し離れた生体植物内に産卵する。成虫の寿命は1年ほどとされる。捕まえると擬死をする。
生息場所	おもに平地や低山地の挺水植物が繁茂する池沼や溝、湿地の滞水、水田などから発生するが、しばしば高地でもみられる。いずれの水域も周辺に隣接した林地が必要である。幼虫は、挺水植物や藻などにつかまって生活している。東北日本では産地が局地化して比較的まれであるが、関東以西の西南日本の低地では普通に見られる。
食性	
生息環境への配慮事項	繁殖をするための挺水植物などが生育する池沼と、そこに隣接して採餌・越冬するための雑木林ややぶが一体となって存在している環境が必要となる。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html	